

# 歓迎あいさつ

「文明間対話センター」ライハナ・アブドゥーラ所長

はじめに、マラヤ大学・文明間対話センターを代表  
いたしました、このシンポジウム「文明間対話——平  
和・共生・持続可能性」に参加されたすべての皆様  
に平安あれと、お祈り申し上げます。当センターは光榮  
にも、国際的評価の高い東洋哲学研究所ならびにマレー  
シア創価学会と協力してのマレーシア初のシンポジウ  
ムの一翼を担うことができました。

今や人類は、相互理解によって平和的に共生する、  
という考え方を再学習しなければならない時代を迎え

ています。このシンポジウムは、その喫緊の要請に  
えようとされるものです。近年、我々はいくつかの民族  
への残虐行為の報道に接し続けてきました。それらは  
宗教的あるいは民族的動機によってなされたもので  
すが、もしも我々が自分自身を「人間」と呼ぶのであれば、  
近代の「人間」として、とても受け入れられない行為  
です。

我々は祈ります。ミャンマーやシリア、その他、紛  
争を抱えるすべての国に、平和と調和の共生がもたら

されることを。そして我々は願います。ヒューマニズムの精神を幅広くむための講習と対話がもっとたくさん行われることを。このシンポジウムはその始まりであり、そして決してこれだけで終わるものではありません。私は信じています。対話で世界に橋を架けることによって、あらゆる差異を乗り越えていけるはずだと。

このシンポジウム実現のために直接的・間接的に貢献してくださったすべての方に、最大の感謝を捧げます。国民統合局 (National Integration Department) の皆様、そしてマラヤ大学のさまざまな部署のスタッフが多大な努力をしてくださいました。シンポジウム参加者の皆様が満足されるよう、心より念願いたします。

このシンポジウムは、平和と共生への対話を前進させるための最良の基盤を提供してくれるに違いありません。どうか、平和に出番を与えようではありませんか (Give Peace a Chance)。

クルアーン (コーラン) の第49章 (「部屋」の章) 13節にはこうあります。

「人びとよ、われは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これはあなたがたを、互いに知り合うようにさせるためである。アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたのうち最も主を畏れる者である。本当にアッラーは、全知にして凡ゆることに通曉なされる」(日本ムスリム協会訳)  
海外から来られた皆様を「ようこそ」と歓迎し、楽しいマレーシア滞在でありますよう希望いたします。  
ありがとうございます。(日本語で) ドウモアリガトウ。

(Raihanah Abdullah)  
Director of Centre for Civilisational Dialogue